

共汗でつくる新「京都市動物園構想」

近くて楽しい動物園

～新たな都市型動物園を目指して～

平成 21 年 11 月

京都市

「京都市動物園があつてよかった」「来てよかった」。訪れるすべての人に、そう思ってもらえる動物園にしよう！そんな熱い思いで、たくさんの市民の皆様と新しい動物園の構想づくりを進めてきました。そしてこの度、動物たちへの深い愛情と新しいアイデアがいっぱいつまった「共汗でつくる新『京都市動物園構想』」を策定致しました。皆様に自信を持ってお届け致します。

京都市動物園は、明治36年（1903年）に、全国で2番目に開園しました。市民の皆様から多額の寄付金が寄せられ、市民の手により誕生した全国初の動物園として、これまで多くの皆様に愛されてきました。

本構想は、開園以来100年以上が経過した施設の再整備を機に、更に100年先も愛され続ける動物園を目指そうと、「動物の飼育・展示」、「環境教育」、「種の保存」、「研究」の具体的な方策をまとめたものです。

策定に当たっては、市民の皆様をはじめ有識者など多くの皆様と情報や課題、夢や誇りを共有し、まさに共に汗する「共汗」で取り組んで参りました。本年1月には、構想の素案を発表し、3月には「動物園大好き市民会議」を設置。有識者による専門委員会や市民委員によるワークショップ「親子で語ろう！未来の動物園会議」などで、活発に議論していただきました。

構想には、未来まちづくり100人委員会の「岡崎ホールディングス」部会からいただいた御提言や、パブリックコメントにお寄せいただいた市民の皆様の御意見も盛り込んでいます。

また、構想の策定作業を進めていた本年10月には、京都大学と連携して進めている京都市動物園のチンパンジー舎の取組が、NPO法人「市民ZOOネットワーク」主催の「エンリッチメント大賞2009」を受賞するという、うれしいニュースも飛び込んで参りました。

これは、動物園に研究者が常駐するという国内初の体制のもと、動物たちの環境を第一に考えながらその行動を観察し、お客様にもその姿を御覧いただくという今までにない試みが評価されたものです。本構想を進めていく上で、大きな励みになりました。

これからも京都市動物園では、都心部の近くに立地する利便性を生かしながら、動物たちの環境を大切につくり、幸福に暮らす動物たちをお客様が間近で見ることができる、そんな「近くて楽しい動物園」を目指して、様々な取組に挑戦して参ります。進化し続ける京都市動物園に御期待ください。



平成21年11月20日

京都市長 門川大作

近年、「理科ばなれ」という言葉をよく耳にします。その一因は、自然環境の急激な変化にあるのかもしれませんが。かつて、私たちの周りにはさまざまな動植物がいて、五感を通じてそれらを直接感じることができました。そうした体験は、各人が成長していく過程で、自分を取り巻く環境の理解や、それぞれの人格形成にまでも役立っていたように思います。いまの日本の子どもたちはどれほどの動植物を知っているのでしょうか？子どもたちが人以外の生命について初めて学ぶことができる理科の教科書からは日本固有の種さえ姿を消し、生物の多様性など見る影もありません。言わば、今後彼らが直面する複雑な社会や現象を理解する上で必要な、多様な視点を養う芽は摘み取られつつあるのです。そうした状況の中で、博物館相当施設である動物園が担う役割は重大なものと言わざるを得ないでしょう。

動物園は「飼育動物」「動物園で働く人々」「動物園を支える市民」という3つの構成要素で成り立っています。動物が心身共に幸福に暮らせる環境作り、それを多面的に保証する人々の努力、さらにはそれらの全てを支え応援してくれるひとり一人の共汗が必要です。それらが尊重されてこそ、動物園の掲げる「動物の飼育・展示」「環境教育」「種の保全」「研究」という4つの使命が達成されるでしょう。そうしたことを念頭に置き、また京都でしか出会うことのできない動物園を目指して、ここに**共汗でつくる新「京都市動物園構想」**の最終報告書をまとめました。この報告書が、独創的かつ斬新的な「近くて楽しい動物園」を京都市に実現する礎となることを願っています。

本報告書をまとめるにあたり、市民のみなさまからはパブリックコメント等を通じてさまざまなご意見を、また京都市未来まちづくり100人委員会「岡崎ホールディングス」からは貴重なご提言をいただきました。本年3月に設置された「動物園大好き市民会議」の市民委員、及び専門委員会のみなさまには、本構想に関して度重なる活発なご議論をしていただきました。さらに、門川京都市長をはじめとする京都市職員・動物園職員のみなさまには多大なるご尽力をいただきました。ここに記して感謝の意を表したいと思います。

共汗でつくる新「京都市動物園構想」の実現に向け、今後もみなさまからのご支援・ご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。



平成21年10月23日

「動物園大好き市民会議」専門委員会

座長 伊谷 原一

目次

1	京都市動物園の現状と課題	1
	（1）京都市動物園の現状	1
	（2）課題の整理	6
2	「近くて楽しい動物園」	
	～新たな都市型動物園を目指して～	7
	（1）基本方針	7
	（2）7つのコンセプト	7
3	魅力ある展示に向けた施設整備	9
	（1）基本方針	9
	（2）展示コンセプト	10
4	ゾーンテーマに応じた施設整備	12
	ゾーンごとのテーマと施設整備計画進行プラン	13
	（1）ふれあい広場「おとぎの国」整備事業	14
	（2）ネコワールド整備事業	16
	（3）アフリカの草原整備事業	18
	（4）サルワールド整備事業	20
	（5）京都の森整備事業	22
	（6）ゾウの森整備事業	24
	（7）教育・管理施設整備事業	26
	（8）利便施設、休憩エリア整備事業	27
	（9）バックヤード・研究施設整備事業	29
5	活性化に向けた取組	30
	（1）基本方針	30
	（2）教育プログラムの策定	31
	（3）市民との共汗でつくる動物園	33
	（4）サービスの向上	36
	（5）新たな入園者の開拓	38
資料	各種の動物園事業やイベント	40

1 京都市動物園の現状と課題

(1) 京都市動物園の現状

ア 優れた周辺環境と利便性の高い都市型動物園

- 琵琶湖疏水と東山の緑，文化施設が溶け合う岡崎地域の文化ゾーンの一部に在り，都心部から至近距離で，地下鉄や市バス等の交通の便に優れている。
- 敷地内の樹木は千本を超え，春の桜，夏の緑陰，秋の紅葉と季節毎の変化を見せるほか，南側には琵琶湖疏水が流れる風光明媚な環境にある。
- 琵琶湖疏水の水は，動物飼育や植物管理等にも利用されている。



イ 動物に「近い」動物園

- 敷地は約4ヘクタールと，大都市にある動物園^{*1}に比較して狭いものの，飼育動物は，希少動物を含む165種661点（平成21年3月末）と遜色はない。
- 敷地を狭く感じさせない施設レイアウトや動線設定，狭い敷地に適宜配置された飼育施設により，動物と入園者が「近い」動物園である。

ウ 古い歴史と開園以来の先駆的な取組

- 明治36（1903）年4月に，全国で2番目に開園した。市民の寄付金と市費により建設された動物園としては最も古い歴史を持つ。
- 全国で初めてのライオンの人工ほ育の実施や，「ゴリラ」の飼育下三世代繁殖の成功，全国初の動物とふれあえる施設である「おとぎの国」の開設と動物とのふれあいを通じた教育の取組等，先駆的な取組^{*2}を行う。

エ 京都大学との連携

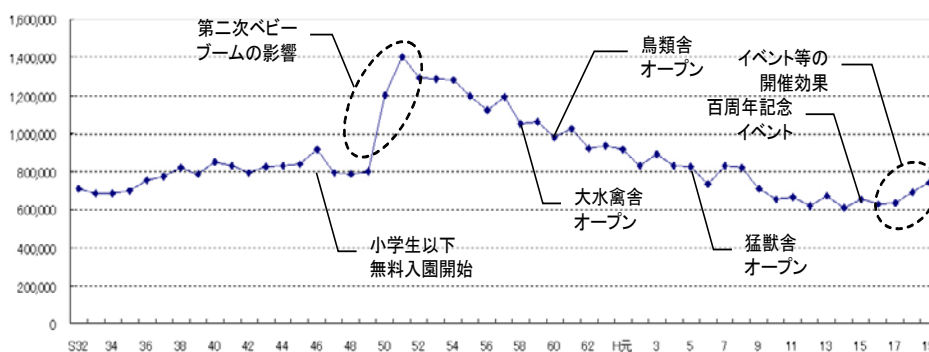
- 平成 20 (2008) 年 4 月、京都大学との間で「野生動物の保全に関する教育・研究の連携協定」を締結し、京都大学野生動物研究センターの教員が、国内で初めて大学教員として動物園に常駐している。
- 教員は、動物園飼育員と協働して、シロテテナガザル、マンドリルを対象にした、「こころ」の進化過程を解明する比較認知科学研究^{※3}や、ニシゴリラ、エソヒグマ、ダチョウを対象として飼育環境の評価や改善を行うための環境エンリッチメント^{※4}研究を実施している。平成 21 (2009) 年 5 月からは、チンパンジーを対象に比較認知科学研究が始まった。
- 環境教育への取組としては、研究成果を平易な掲示パネルとして説明を行ったり、アフリカの自然や野生動物の写真を使って現在のアフリカの状況を解説する講演等を行っている。

オ 展示施設の老朽化と時代の変化への対応

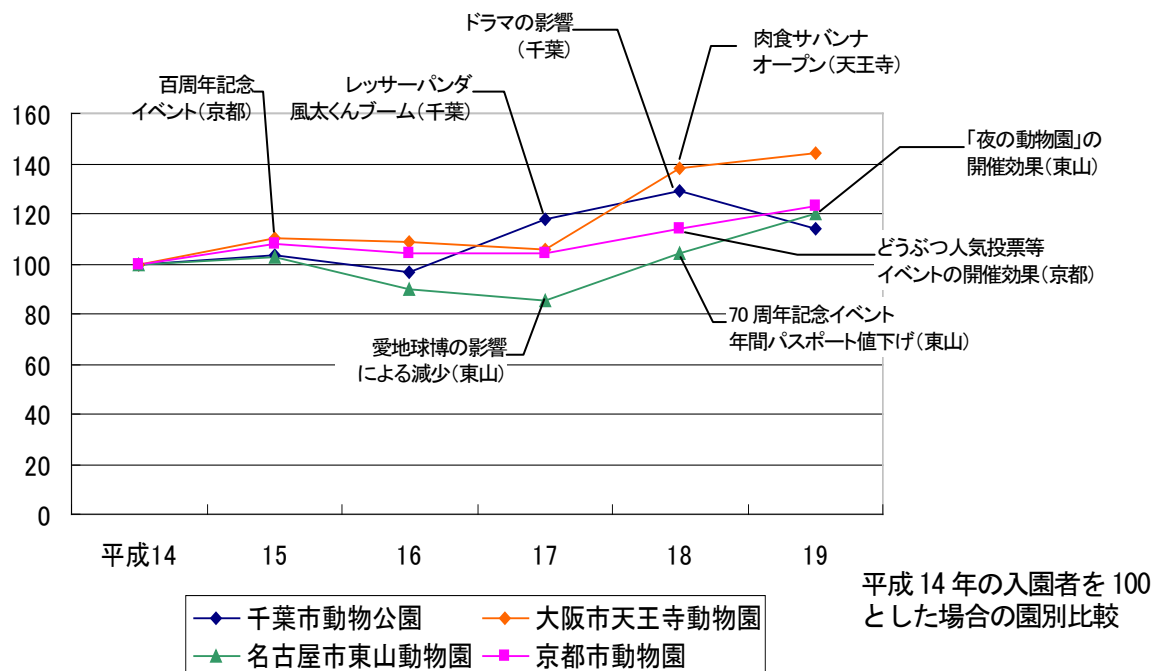
- 施設の多くは老朽化^{※5}や経年による陳腐化が進み、近年では多様な展示手法が全国で展開されるなか、時代遅れの印象を与えている。
- 園路は、ほとんどが未舗装であり、車椅子の方などが利用困難な場所がある。

カ イベント開催効果による近年の集客増

- 昭和 46 (1971)～49 (1974) 年にかけての第二次ベビーブームの影響により、昭和 50 (1975)～52 (1977) 年にかけて入園者数は飛躍的に増加し、昭和 52 (1977) 年には年間約 140 万人を記録したが、その後は、少子化現象やレジャーの多様化等の影響を受け、入園者数は徐々に減少傾向に転じた。
- 近年は、全国的な動物園ブームの追い風を受けるとともに、各種の動物園事業やイベント等^{※6}に工夫を凝らした結果、平成 19 (2007) 年度の入園者数は、平成 9 (1997) 年度以来 10 年ぶりに、70 万人台に回復した。



- 他の動物園では、人気動物のマスコミへの露出、大規模な施設改修や大規模イベントの開催により入園者数を増やしてきたのに対し、地道な投資とイベントや事業の開催効果により入園者数の増加に成果をあげてきている。
- 平成 20（2008）年 7 月から、リピーターを確保するため、年間入園券「Zoo〜っとパス」の販売を開始した。



キ 事故からの教訓、「安全の確保」

- 平成 20（2008）年 6 月に発生した動物飼育員死亡事故を教訓に、新たに安全管理担当者を新設し、作業手順の抜本的見直しや、全国の動物園で初めて、動物舎内で不慮の事故が発生した場合に無線で自動的に通報する「緊急通報システム」の導入、入園者の安全に万全を期すための人止め柵や窓パイプ等の増改修等、入園者と職員の安全対策を進めている。

ク 利便施設の特徴のないサービス提供

- 利便施設である食堂、売店等は 7 店舗あるが、多くの施設が老朽化^{※7}し、加えて、食堂のメニュー、販売グッズ、おもちゃ類にはこれといった特徴がない。
- 平成 21（2009）年 3 月に NPO 法人京都自然動物協会（現京都市動物園ふあみりー）がオフィシャルショップを開設し、オリジナルグッズの開発を進めている。

ケ ボランティア組織の導入と地域連携の推進

- 「おとぎの国」を拠点として教育活動に取り組むボランティア組織、「京都市動物園

ボランティアーズ」が、昭和 56（1981）年に発足した。動物園におけるボランティア組織としては、上野動物園に次ぐ歴史がある。

- 平成 18（2006）年には、京都市立岡崎中学校の生きる力の育成を目指す「総合的な学習の時間」で、冬にアカゲザルに温泉をプレゼントしたいという生徒たちの提案を受け、地元企業や公衆浴場組合などの御協力で「サル温泉」が実現した。

「サル温泉」は、動物園が地元の学校と地元企業の仲立ちをし、動物園での地域連携を実現するという新しい取組である。

コ 野生鳥獣救護事業の取組

- 京都府と協力して、京都市域の傷ついた野生の鳥類とほ乳類の救護活動を行い、自然保護の思想の啓発と地域の野生動物の保全に努めてきた。
- 平成元年（1989）には、活動の拠点となる野生鳥獣救護センターを設置した。
- 平成 20（2008）年度末までに鳥類 16,433 羽、ほ乳類 1,168 頭が持ち込まれ、そのうち約 39%を自然復帰させた。
- 救護活動を通して、地域環境や野生動物との関わりについて啓発活動を進めている。

資料

※ 1 大都市動物園の敷地面積比較

園 館 名	敷地面積 (㎡)	園 館 名	敷地面積 (㎡)
京 都 市 動 物 園	38,765	札 幌 市 円 山 動 物 園	224,780
大 阪 市 天 王 寺 動 物 園	110,000	仙 台 市 八 木 山 動 物 公 園	146,463
神 戸 市 立 王 子 動 物 園	80,618	広 島 市 安 佐 動 物 公 園	496,273
東 京 都 恩 賜 上 野 動 物 園	142,898	福 岡 市 動 物 園	103,206
横 浜 市 立 金 沢 動 物 園	128,000	到 津 の 森 公 園 (北 九 州 市)	106,000
名 古 屋 市 東 山 動 物 園	322,100	平 均	172,646

※ 2 本園の先駆的取組

- 明治 43（1910）年 全国初のライオン雄雌各 2 頭誕生
- 昭和 28（1953）年 全国初のトラ雄 2 頭雌 1 頭誕生
- (昭和 30（1955）年 全国初の動物とふれあえる施設「おとぎの国」開設)
- 昭和 37（1962）年 全国初のシロテナガザル雄 1 頭誕生
- 昭和 41（1966）年 全国初のシュバシコウの人工ふ化に成功
- 昭和 42（1967）年 全国初のクロエリハクチョウのふ化に成功
- 昭和 45（1970）年 全国初のニシゴリラ雄 1 頭誕生
- 昭和 46（1971）年 全国初のベニロフラミンゴのふ化に成功
- 昭和 51（1976）年 全国初のヨーロッパバイソン雌 1 頭誕生、
全国初のフロリダニシキヘビの人工ふ化に成功
- (昭和 56（1981）年 京都市動物園ボランティアーズ発足)

昭和 56 (1981) 年	全国初のオオミズナギドリの人工ふ化に成功
昭和 57 (1982) 年	ニシゴリラ雄 1 頭誕生, 全国初の飼育下三世代目
昭和 59 (1984) 年	全国初のアカアシガメの人工ふ化に成功
昭和 63 (1988) 年	全国初のコフラミンゴのふ化に成功
(平成 元 (1989) 年	10 月野生鳥獣救護センター開設)
平成 2 (1990) 年	全国初のムジヒメシャクケイのふ化に成功
平成 9 (1997) 年	全国初のコフラミンゴの人工ふ化に成功
平成 15 (2003) 年	100 周年, 収容動物 175 種 721 点
平成 18 (2006) 年	飼育係 3 名が NPO 法人市民 ZOO ネットワーク主催のエンリッチメント大賞飼育部門大賞を受賞
平成 20 (2008) 年	4 月京都大学と野生動物の保全に関する教育・研究の連携協定を締結

※ 3 比較認知科学研究

人間のからだと同じく、心的活動の基盤もまた進化の産物であるという視点から、現生の動物種の比較から「こころ」の進化過程を解明しようとしている。具体的には、小型類人猿であるシロテテナガザルと、オナガザル科のマンドリル、さらには 21 年度に新たに飼育を始めた大型類人猿であるチンパンジーを同じ課題で比較し、認知能力の比較をおこなう。現在はアラビア数字の系列記憶の訓練を行っている。シロテテナガザル、マンドリルとも、従来の大学や研究室における研究例はほとんどなく、多様な種を保有する動物園だからこそ可能な研究として注目されている。

※ 4 環境エンリッチメント

飼育動物について、その動物の身体的な健康や衛生だけでなく「こころ」も重視されなければいけない、心身ともに健全な暮らしがあるという動物福祉の考え方が根底にある。単純で単調になりがちな飼育環境に工夫を加えて、動物が生活する環境を豊かで充実したものに改善する試みのこと。具体的には環境面に問題があると起こるとされている、さまざまな異常行動の測定、抑止のための対策、対策の評価を行う。

※ 5 老朽化した動物舎

動物舎	建築年度	動物舎	建築年度	動物舎	建築年度
ソウ舎	大正 12	アシカ池	昭和 29	走鳥類舎	昭和 44
カバ舎	昭和 2	おとぎの国	昭和 30	シマウマ舎	昭和 48
クマ舎	昭和 25	ヒグマ舎	昭和 30	は虫類館	昭和 49
ヤブイヌ舎	昭和 26	ホッキョクグマ舎	昭和 33	バク舎	昭和 54
キリン舎	昭和 28	ペンギン舎	昭和 41	レッサーパンダ舎	昭和 55
ラマ舎	昭和 28	フラミンゴ舎	昭和 41	猛禽舎	昭和 56

※ 6 各種の動物園事業やイベント (別添 資料)

※ 7 老朽化した利便施設

利便施設	建築年度	利便施設	建築年度	利便施設	建築年度
ソウ舎横食堂	昭和 12	小獣舎横食堂	昭和 12	アシカ池南売店	昭和 30
ソウ舎横売店	昭和 12	小獣舎横売店	昭和 19		

(2) 課題の整理

ア 現代の動物園としての課題

- 「いのちにふれる憩いの場」、「種の保存等自然保護への貢献」、「環境教育」、「研究」といった現代の動物園に求められる使命を十分に果たすことができる環境づくり
- 現代の動物園にふさわしい、環境負荷の少ない設備の導入や環境配慮型の施設への改修、自然エネルギーの導入、雨水再利用等の推進

イ 岡崎地域にある動物園としての課題

- 岡崎地域の文化ゾーンの一部を担う動物園にふさわしい、周辺景観との馴染みへの配慮と周辺環境への貢献
- 岡崎地域の「にぎわい」に向けた地域連携の推進
- 公共施設としてのユニバーサルデザイン化の推進

ウ 京都市動物園としての課題

- 敷地の狭さを感じさせない施設レイアウトや動線設定、動物と入園者が「近い」という現在の特色の継承
- 京都大学との連携を十分に機能させ、伝統を活かしながらも新進気鋭を好む京都にある動物園として「飼育」、「展示」、「教育」、「研究」における、先駆的な取組の継続
- 動物園事業やイベント開催による集客実績を踏まえ、これらの質的な充実及び継続的な開催
- 平成20（2008）年6月の飼育員の死亡事故の教訓を風化させない、安全確保の努力の継続
- 京都市動物園の魅力向上のための、利便施設におけるオリジナルメニュー、グッズの開発等顧客満足度（CS）の向上

2 「近くて楽しい動物園」 ～新たな都市型動物園を目指して～

(1) 基本方針

ア 琵琶湖疏水の豊かな水源と自然環境の良さなどに鑑み、現在地での再整備

イ 交通の便の良い立地や環境の長所を活かし、限られた面積を最大限に活用することで、動物が入園者に近いという本園の特色、魅力を打ち出し、人も動物も楽しい新たな都市型動物園を目指す

ウ 施設整備の効果による入園者増を一時的なブームに終らせないよう、教育プログラムやサービス向上等のソフト充実を推進し、ハード整備とソフト充実の相乗効果でリピーター等の確保、集客の推進

(2) 7つのコンセプト

ア 「近く」で動物たちの大きさやにおいを実感し、「いのち」が感じられる動物園

- 動物が入園者に「近い」という特色を生かし、五感を刺激し、より動物を身近に感じ、その姿や行動、能力を実感し、野生動物の生息地に思いを馳せる、そうした感性と想像力を育むとともに、「自然」、「いのち」、「こころ」、「人間」について考える場の提供

イ 全ての人に優しい動物園

- 段差のない園路や授乳室など、お年寄りやハンディキャップのある方、子育て世代にも配慮した設備を備え、全ての入園者が快適に利用できる施設への転換

ウ 環境に優しい動物園

- いのちの大切さや環境保全の重要性を伝える場としての動物園にふさわしい、環境負荷の少ない設備の導入や環境配慮型の施設への建替え、動物舎暖房への自然エネルギーの導入、雨水利用、動物糞の堆肥化、地元間伐材の利用等木のぬくもりが感じられる施設整備の推進

エ 楽しく学べる動物園

- 動物たちとふれあい、また身近に観察できることを通じて、楽しみながら生物の多様性からいのちの尊さまでを学習できる場の提供
- 常駐する京都大学教員の最新の研究結果を、即座に体感できる場の提供

オ 安全で安心な動物園

- 入園者の皆様に緊急情報を正しく伝えるための園内放送設備の改善
- 緊急・異常事態にいち早く通報できる、全国の動物園で初めての動物舎内の不慮の事故発生時に無線で自動的に通報する「緊急通報システム」を園内27箇所に設置

カ 市民との共汗でつくる動物園

- 地域住民や市民グループ、ボランティアの方々との共汗による動物園運営

キ 「食べる楽しみ」、「買う楽しみ」を大切にした動物園

- 子どもにも人気のあるレストランメニューや思い出に残るオリジナルグッズの開発、市民（顧客）ニーズに合った商品販売の促進とリピーター確保

3 魅力ある展示に向けた施設整備

(1) 基本方針

ア 整備の方法

- 施設整備に当たっては、開園しながら段階的に整備する。
- 施設整備の対象は、「ヒトと動物」の安全面から見直し、安全面で課題のある施設や老朽化が進んだ施設を優先し、平成21年度から27年度の7年間で行う。
- 第1の整備は、南側琵琶湖疏水側中央部分の遊休空間を利用し、ふれあい広場「おとぎの国」とする。
- 整備の過程で市民ニーズの変化や、飼育、展示技術の進展も予想されるので、整備計画は一定期間毎に見直しを行い、整備計画の見直しは、市民の意見を取り入れながら実施する。

イ 繁殖可能な飼育環境の整備

- 飼育動物については飼育実績を継承するが、環境エンリッチメントに配慮し、飼育種の選定や飼育スペースの拡充を図り、種の保存に向けて繁殖可能な施設環境の整備を推進する。

ウ 研究機関等の活動拠点の整備

- 野生動物の保全や動物行動の理解を目的とした研究について、京都大学をはじめ研究機関の活動拠点としての機能を果たすことのできる環境整備を行う。

エ 京都らしいサービス供給が可能となる施設の整備

- 「京都らしさ」と「味」にこだわった動物園ならではのメニューが提供できる飲食店等、特色のあるサービスが供給可能な利便施設の整備を行う。

(2) 展示コンセプト

ア 環境エンリッチメントに配慮した展示

- 動物福祉の立場から飼育動物が心身ともに健康に暮らせるような飼育環境を提供するとともに、なぜそのような環境が必要なのかを理解できる展示とする。

イ 動物を間近で観察できる展示

- 動物の大きさやにおい、鳴き声など五感を実感し、いのちが感じられる場を提供する。
- 動物の指や目などの形態や特徴、行動様式を間近で観察することで、「種」や「社会的な行動」の違いを学ぶ場を提供する。

ウ 野生動物の保全につながる展示

- 絶滅の恐れのある動物についての現状を紹介し、野生動物の保全の取組の重要性を学ぶ場を提供する。
- 京都の多様な自然環境を学ぶ、体験の場を提供する。
- 京都の自然環境に関する情報を提供し、野生鳥獣の救護活動や自然環境の保全の重要性を紹介する。

エ 動物の知性を実感できる展示

- 京都大学での比較認知科学の研究^{*1}を動物舎で行い、課題に取り組むチンパンジーの姿を間近で見ることができるようにする。
- チンパンジーの学習の過程を説明する展示を行い、学習の進展に合わせて随時更新する。
- アジアゾウのトレーニングの様子や比較認知科学の研究を紹介する。
- サル類やクマ類の給餌装置等を工夫し^{*2}、動物の飼育環境を充実させるとともに、動物がそれらを操作する学習能力の高さを紹介する。

オ ヒトと動物の関係について学べる展示

- 家畜を通して、「ヒトと動物の歴史」を学ぶ場を提供する。
- 動物とのふれあいを通して、「いのちの尊さ」を学ぶ場を提供する。
- アジアゾウの使役動物としての歴史を紹介する。
- 京都にいる野生動物を通して、民話の主人公、狩猟の対象、農作物被害をもたらす害獣など、「動物の様々な側面」を学ぶとともに、野生動物との共生に向けた取組を紹介する。

資料

※ 1 京都大学での比較認知科学の研究

京都大学霊長類研究所でチンパンジーの知性を総合的に研究する「アイ・プロジェクト」が30年にわたって継続的に行われている。同研究所は、国内で始めてチンパンジーの放飼場に自然の植栽を定着させたり、15mの高さの構築物を造りチンパンジーの躍動感あふれる運動を再現したりと、環境エンリッチメントでも国内の類人猿飼育施設をリードしている。

※ 2 サル類やクマ類の給餌装置等の工夫

サル舎のシロテテナガザルとフサオマキザル展示施設における給餌装置の工夫は、NPO 市民ZOO ネットワークが主催の2006年度のエンリッチメント大賞を受賞するなど外部からの評価も高い。エゾヒグマ展示施設においても、給餌時間を延長させる装置の工夫が、2008年度の同賞候補にあげられている。さらにサル舎のシロテテナガザルとマンドリル展示施設では、午後に京大教員による認知課題を通じた少量の給餌も行っており、野生では全行動時間の50%といわれる採食時間を延長させる工夫を行っている。

4 ゾーンテーマに応じた施設整備

ゾーンごとに「テーマ」を設け、野生動物の保全への動機付けとなるような、魅力ある展示を目指す。

施設配置図



〈ゾーンごとのテーマと施設整備計画進行プラン(案)〉

ゾーン	テーマ	整備年度(案)	
ふれあい広場「おとぎの国」	いのちの尊さ, いのちのつながり	1	平成 21 年度 ～22 年度
ネコワールド	いろいろな違いを発見しよう	2	平成 22 年度 ～23 年度
アフリカの草原	からだのつくりをくらべてみよう		
ゾウの森 (バク舎)	知性と大きさに感動		
教育・管理施設 (医療施設・野生鳥獣救護センター)			
サルワールド (オランウータン舎)	同じ祖先を持つ仲間たちとの出会い	3	平成 23 年度 ～24 年度
バックヤード・研究施設			
利便施設, 休憩エリア (東・西・中央休憩エリア)			
京都の森	豊かな森を感じてみよう	4	平成 23 年度 ～25 年度
教育・管理施設 (学習施設)		5	平成 23 年度 ～26 年度
サルワールド (サル島)	同じ祖先を持つ仲間たちとの出会い	6	平成 24 年度 ～25 年度
利便施設, 休憩エリア (正面エントランス)			
ゾウの森	知性と大きさに感動	7	平成 25 年度 ～27 年度

※ 整備年度は、「設計」「既存施設撤去」「新築」に要する期間である。

(1) ふれあい広場「おとぎの国」整備事業 *ゾーン面積；約2700㎡

基本テーマ【Life いのち】

いのちの尊さ，いのちのつながり



- ・動物とのふれあい体験を通じて，いのちの尊さを伝える
- ・ヒトとの関わりのなかで生きてきた家畜や愛玩動物との関係や歴史が学べる場を提供する
- ・見て，触れて，感じることでできる展示に取り組み，子どもから大人まで楽しみながら学べる場とする

ア 飼育展示計画

- 動物とふれあえる時間帯を増やし，より多くの入園者が動物とのふれあいが可能となる施設とする。
- ヒツジやヤギなどの家畜，愛玩動物の一部は，人止め柵を設けず，より近くで展示する。
- ヒトと家畜，愛玩動物の関係や歴史等をパネルで紹介し，いのちのつながりを伝える。
- 骨や羽などの標本を，触れることができる状態で展示し，体感しながら，楽しく学ぶことのできる環境を目指す。
- ふれあいは家畜や愛玩動物でのみ行い，野生動物には安易に触れることがないように，野生動物と家畜，愛玩動物との区分を明確にした展示とする。
- 野生動物は，レッサーパンダ，フンボルトペンギン等を展示する。これらについては，繁殖に取り組む。
- おとぎの国の団体利用制度である「なかよし教室」※1は，専用エリアを設け，内容の充実を図る。
- 京都市動物園ボランティアーズとの連携やボランティアの育成を強化して，イベント※2開催回数の増加や内容の充実を図る。
- 建築部材にできるだけ地元の木材を使用し，木のぬくもりが感じられる施設とする。

イ 飼育展示動物

- 家畜・愛玩動物

ヤギ, ヒツジ, ロバ, ミニブタ, ウサギ, テンジクネズミ, アヒル, ガチョウ,
ニワトリ等

野生動物

レッサーパンダ^{※3}, イワトビペンギン, フンボルトペンギン^{※4}, ホンドフクロウ,
キバタン, オオバタン等

ウ 施設整備計画

- ヒグマ舎の撤去
- こども広場遊具の移設
- 「おとぎの国」の建替え

エ 主要な施設

- オウム舎
- ウサギ・テンジクネズミ舎
- 家畜舎
- 家禽舎
- レッサーパンダ舎
- ペンギン舎
- 管理棟
- イベント広場（屋根付き広場）
- カメ池, アヒル・ガチョウ池等
- 手洗い^{※5}



イメージ図

資料

※ 1 なかよし教室

引率者のある3歳児以上の団体を対象にした教育プログラム。テンジクネズミやウサギ、ヤギ等とのふれあい体験ができる。事前に引率者に動物の取扱い方等を講習、当日は引率者が直接子ども達に動物の扱い方や接し方を指導する。

※ 2 イベント

京都市動物園ボランティアズと連携して、次のようなイベントを実施してきた。

「動物鳴き声カルタ取り大会」、「動物の足型をとろう」、「ウールコースター作り」、「おとぎの国サーキットクイズ」等

※ 3 レッサーパンダ：レッサーパンダ舎から移転。

※ 4 フンボルトペンギン：ペンギン舎から移転。

※ 5 手洗い

感染症防止のための重要な施設。子供向けに蛇口を低くしたものを併設する。

(2) ネコワールド整備事業 *ゾーン面積；約1200㎡

基本テーマ【 Diversity 多様性 】

いろいろな違いを発見しよう



- ・大型から小型のネコ科動物の展示を通して、生物の多様性を学ぶ
- ・動物福祉の立場から環境エンリッチメントに取り組み、生き生きとした動物の姿を伝える
- ・生息地の現況を伝えるとともに、生息地における保全活動と連携した活動に取り組む

ア 飼育展示計画

- 檻の一部をガラス面にし、より近くで動物を展示する。
- 群れをつくるライオン、繁殖期以外は単独で暮らすトラやヤマネコなど、社会構造の違いを展示する。
- 下から観察できるように空中回廊を設け、頭上を移動したり、休息するジャガーなどを展示する。
- 動物福祉に配慮した取組である「ネコじゃらし」を安全性に考慮した遊具として開発、設置する。
- 絶滅危惧種であるアムールトラ、ツシマヤマネコの繁殖に取り組むとともに、生息地の現状をパネルで紹介する。
- ツシマヤマネコについては、生息地における保全活動と連携した活動に取り組む。

イ 飼育展示動物

- ライオン、アムールトラ、ジャガー、オオヤマネコ、ツシマヤマネコ

ウ 施設整備計画

- 「スカイダンボ」の撤去
- 「猛禽舎」の撤去
- 「ヤブイヌ舎」の撤去
- 「猛獣舎」の建替え

エ 主要な施設

- 大型ネコ舎
- 中・小型ネコ舎



イメージ図

(3) アフリカの草原整備事業 *ゾーン面積；約 4500 m²

展示テーマ【 Watch 観察 】

からだのつくりをくらべてみよう



- ・アフリカのサバンナで暮らしている大型草食獣、鳥類の混合飼育を行う
- ・サバンナに住む動物たちの環境に適応したからだのつくりや、生活様式の違いがわかるよう展示する
- ・観覧用木道（陸橋）を設置し、給餌体験やキリンの目線で観察ができる施設とする。
- ・キリンの塔を移設し、キリンの視界を再現するカメラを設置することで、その見え方を疑似体験できる。

ア 飼育展示計画

- キリン舎は、群れ飼育と繁殖が可能なものとし、キリン観覧用木道（陸橋）を設け、給餌体験などができる施設とする。
- 種別調整者^{*1}として国内の繁殖計画を担当しているグレビーシマウマの繁殖に積極的に取り組む。
- カバ舎は、陸上での採食風景が観察できる施設とする。昼間、キリンやシマウマが使用しているグラウンドを夜間はカバに開放するなど、限られた敷地を有効に活用する。
- 研究機関^{*2}と共同研究している内容を紹介する。
- 各動物の首の長さ、模様等、からだのつくりの違いを示したパネル等を利用し、観察を通じた学習の場を提供する。

イ 飼育展示動物

- アミメキリン、カバ、グレビーシマウマ、ダチョウ、ホロホロチョウ、フラミンゴ

ウ 施設整備計画

- カバ舎の建替え
- キリン舎の建替え
- シマウマ舎の建替え
- フラミンゴ舎の建替え
- 走鳥類舎の建替え
- アシカ池, ラマ舎, クロエリハクチョウ舎の撤去
- アシカ池南売店の移設
- キリン塔 (空飛ぶキリン) ※³の移設

エ 主要な施設

- キリン舎
- カバ舎
- シマウマ舎
- ダチョウ舎
- フラミンゴ舎
- ホロホロチョウ舎
- キリン観覧用木道 (陸橋) 等
- キリン塔 (カメラ付)



資料

※ 1 種別調整者

社団法人日本動物園水族館協会の種保存委員会で、国内の希少動物の繁殖計画を立案し個体管理を行う担当者

※ 2 共同研究している研究機関

- ・京都薬科大学 橋本貴美子教授 カバの赤い汗の成分とその機能の研究
- ・大阪大学大学院人間科学研究科 中道正之教授 キリンの母子関係についての研究

※ 3 キリン塔 (空飛ぶキリン)

平成12年11月京都岡崎ライオンズクラブ (現京都岡崎白川ライオンズクラブ) から寄贈を受けた。同時に寄贈を受けたトランシーバー (簡易無線機) の中継アンテナの役割を担うため建造された。平成20年10月, 新規に無線機を導入したことにより中継アンテナの役割を終え, モニュメントとしてのみ現在に至る。

(4) サルワールド整備事業 *ゾーン面積；約 4900 m²

展示テーマ【 Evolution 進化 】

同じ祖先を持つ仲間たちとの出会い



- ・原始的なサルからヒト科に属する大型類人猿3属にいたるまで、多様な霊長類を集合展示する
- ・ヒト科との形態的な違いや、知的能力の度合いなども含めた比較展示を行う
- ・京都大学野生動物研究センターとの連携による、チンパンジーの知性研究の様子、フィールドワーク等の最先端の研究成果や、保全活動の様子を掲示する

ア 飼育展示計画

- ヒト科との形態的な違いや、知的能力の度合いなども含めた比較展示を行う。
- それぞれの種にあった行動を引き出す展示を展開する。
- 京都大学野生動物研究センターとの連携によって得られるアフリカやアジアでの野生の類人猿の研究現場の様子を展示し、研究から得られた情報や保全活動の状況等を説明する展示を行う。
- 現地で保全活動を行っている NPO/NGO*の協力を得て、アフリカの野生動物の現状やヒトと動物、自然との関わりを学ぶ環境教育プログラムを提供する。
- チンパンジーを群れで飼育し、グラウンドには、樹林をイメージさせる加工木及び天然木を多用したタワーを設け、チンパンジー本来の行動を展示する。また、設置したカメラ映像を利用し、タワー上からの視界や蜜釣り行動を別角度から観察できるようにする。
- チンパンジーの学習室内での比較認知科学の研究の様子を通して、チンパンジーの知性が感じられる展示とする。
- ゴリラの屋内展示室檻を強化ガラスに換え、近くで観察できる施設とする。
- ゴリラのグラウンドは、植栽による緑化を継続し、森をイメージできる空間づくりを行う。
- 樹上生活者であるオランウータンの枝渡りの様子などが、下からと水平方向から観察でき、理解できる展示に取り組む。
- いずれの種についても、遺伝的多様性を保ちながら計画的に繁殖に取り組む。
- サル島は、強化ガラスや高低差を生かした改修を行い、プールへの飛び込みやさまざまな角度からの観察が可能な施設とする。

イ 飼育展示動物

- チンパンジー，ニシゴリラ，ボルネオオランウータン，シロテテナガザル，マンドリル，フサオマキザル，ワオキツネザル，アカゲザル

ウ 施設整備計画

- チンパンジーの群れ飼育のための類人猿舎の改修
- オランウータン舎の建替え
- サル島の改修
- 模擬研究サイトの展示（パネルや映像）

エ 主要な施設

- 類人猿舎
- オランウータン舎
- サル舎
- サル島



イメージ図

資料

※ 現地で保全活動を行っているNPO/NGO

・緑の回廊プロジェクト

ギニア共和国のボッソウ・ニンバの野生チンパンジーを保護するために植林活動や教育普及活動を行っている。

・ポポフ

コンゴ民主共和国（旧ザイール）東部のカフジ・ピエガ国立公園でゴリラの保護を目的にエコ・ツアーと環境教育を実践している地元の若者が中心になって1992年に創設されたNGOで、ポレポレ基金（Polepole Foundation）の略称

・ビーリア（ボノボ）保護支援会

コンゴ民主共和国のワンバ地区でボノボ（別名ピグミーチンパンジー）との共存を続けてきた住民が自立的に発展を続けられるような医療面や教育面でのサポートを行っている。

・カリンス森林プロジェクト

ウガンダ共和国カリンス森林保護区において、チンパンジーの保護を目的に、エコツーリズムプロジェクトの支援と地域の環境教育を行っている。

(5) 京都の森整備事業 *ゾーン面積：約5600㎡

基本的テーマ【 Discovery 発見 】

豊かな森を感じてみよう

- ・京都の豊かな自然を伝え、ヒトと野生動物の関わりが学べる展示とする
- ・身近な自然に関する情報を展示・提供し、地域の自然環境保全に貢献できる施設とする
- ・希少淡水魚類の保全・繁殖を行う



ア 飼育展示計画

- 京都市近郊の里山から深山への風景を再現し、そこに生息する動物を展示する。
- 水辺から里山、深山など京都の豊かな自然景観の中を歩きながら、ほ乳類だけでなく、鳥類、は虫類、両生類、魚類など様々な動物を同時に、かつ連続的に観察することで生態系が理解できる施設とする。
- 現況地形と樹木を活かしながら、原生林や里山がイメージできる空間の整備を行う。
- 園内で確認されるホタルの定着と増殖及び日本産希少淡水魚であるタナゴの保全繁殖に取り組むために、水辺の環境を整備する。
- 環境保全団体等*との協働により、京都の最新の自然環境情報を提供する。
- 野生鳥獣救護センターと連携した展示を行う。
- 鳥類をより近くで観察するために、通り抜け式バードケージを整備し、カモ類の水中採餌行動も観察できる施設とする。

イ 飼育展示動物

- ニッポンツキノワグマ、ニホンカモシカ、ホンシュウジカ、ホンドタヌキ、ホンドギツネ、ニッポンアナグマ、ホンドテン、ホンドリス、ムササビ、オジロワシ、クマタカ、オオタカ、アカショウビン、ホンドフクロウ、メジロ、ヤマガラ、オオルリ、ニホンキジ、アオダイショウ、シマヘビ、ヒキガエル、オオサンショウウオ、イワナ、アマゴ、ウグイ、タカハヤ、イチモンジタナゴ、ホタル等

ウ 施設整備計画

- カモシカ苑の撤去
- 小獣舎横食堂及び売店の移設
- バードケージ, クマ舎, シカ舎, カモシカ舎, キツネ舎, アナグマ舎, タヌキ舎の整備
- 古民家風の展示施設
- 鳥類舎の撤去
- 噴水池の整備

エ 主要な施設

- バードケージ
- クマ舎
- シカ舎
- カモシカ舎
- キツネ舎
- アナグマ舎
- タヌキ舎
- 古民家風の展示施設（イベントや展示スペースとして利用）



イメージ図

資料

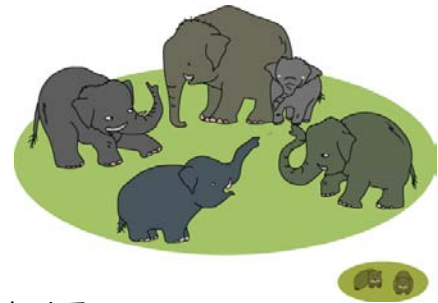
※ 環境保全団体等

財団法人日本鳥類保護連盟, 財団法人日本野鳥の会京都支部 等

(6) ゾウの森整備事業 *ゾーン面積；約 6500 m²

展示テーマ【 Wonderful／Great 驚き 】

知性と大きさに感動



- ・ アジアにおける使役動物としてのゾウの歴史を紹介するとともに、動物園で健康管理のために行うトレーニングを通して、その知性が感じられる展示とする
- ・ アジアゾウの群れ飼育が可能な施設を整備し、繁殖を目指す
- ・ は虫類館を整備し、夜行性獣・は虫類を展示する

ア 飼育展示計画

- トレーニングのノウハウの蓄積を生かし、生態だけでなく使役動物としてのヒトとの関わりが学べる展示とする。
- アジアゾウは高度な社会性を持ち群れ飼育は必須となるため、ゾウ舎は、群れ飼育と繁殖が可能なものとする。
- 分類学的に近い「ゾウ」と「ハイラックス」を同時に見られるようにし、大きさの違いがわかる展示とする。
- 「ゾウ」の大きな特徴の1つである鼻について、「バク」との比較展示を行う。
- ワニ目、カメ亜目、トカゲ亜目から繁殖実績などのある種を選定しては虫類館で展示する。
- 種別調整者として国内の繁殖計画を担当しているハウシャガメの繁殖について、積極的に取り組む。
- 夜行性である原猿類（ショウガラゴ、スローロリス）を、は虫類館で昼夜を逆転して展示する。なお、サルワールド側に配置することで、ゾーンに関連性を持たせた展示とする。

イ 飼育展示動物

- アジアゾウ、ケープハイラックス、ブラジルバク、インドオオコウモリ、アカアシガメ、ハウシャガメ、グリーンイグアナ、ミドリニシキヘビ、ボールニシキヘビ、ニシアフリカコガタワニ、ショウガラゴ、スローロリス 等

ウ 施設整備計画

- ソウ舎の建替え
- は虫類館の建替え
- ホッキョクグマ舎の撤去
- ペンギン舎の撤去
- タンチョウ・オオツル舎の撤去
- ワラビー舎の撤去
- バク舎の建替え
- ソウ舎横食堂及び売店の移設

エ 主要な施設

- ソウ舎
- バク舎
- は虫類館



イメージ図

(7) 教育・管理施設整備事業

*ゾーン面積；約 2600 m²

- ・教育機関や大学等の研究機関と連携し、教育及び研究活動を推進するための施設を整備する
- ・楽しみながら学ぶための情報発信機能を備えた施設を整備する
- ・京都の自然への導入口として、地域環境や野生動物の現状を伝えられる施設を整備する



ア 計画概要

- 生涯学習施設にふさわしい、展示室、多目的ホール・会議室、動物図書館・どうぶつえほん館、ZOO カフェなど、敷地を最大限有効活用して整備する。
- 生息域外での「種の保存」に取り組むために必要な施設として、人工授精、人工ふ化、人工保育、治療及び一時収容施設等の充実、整備を行う。
- 野生鳥獣救護センターでは、動物の保護・治療・研究だけでなく、傷病鳥獣の展示スペースを整備し、地域環境を含めた環境教育を推進する。

イ 施設整備計画

- 学習施設・事務所棟の建替え
- 医療施設の建替え
- 野生鳥獣救護センターの建替え
- 小獣舎の撤去
- キジ舎の撤去

ウ 主な施設

- 学習施設（研究成果の展示室、多目的ホール・会議室、動物図書館・どうぶつえほん館、ZOO カフェ）
- 医療施設
- 野生鳥獣救護センター

(8) 利便施設、休憩エリア整備事業

*ゾーン面積；約9000㎡

- ・全ての入園者に配慮した施設とする
- ・琵琶湖疏水や東山借景を活かした快適で緑豊かな空間づくりを目指す
- ・市民や企業との協働による活性化を図り、「近くて楽しい動物園」づくりを推進する拠点として整備する

ア 計画概要

- 新たに、正門を北西側の二条通岡崎道角に設け、楽しく、魅力あるエントランスを演出する。
- 琵琶湖疏水記念館側連絡口に入園口機能の整備を行い、地下鉄「蹴上駅」からのアクセスを向上させることで、公共交通機関の利用を促進する。加えて、自転車専用の駐輪場を整備する。
- 全ての入園者にとって、快適で利便性に優れた休憩所や温水洗浄便座付トイレ、快適で利便性に優れた休憩所やトイレ、授乳室等を整備する。
- 遊具を観覧車*を中心とした園中央部に集約し、どこか懐かしい雰囲気の中で、子ども達が安心して遊べる環境を整える。
- 外からも利用できる特徴のあるレストラン、売店等のサービス施設を整備し、入園者の「食べる楽しみ」、「買う楽しみ」の顧客満足度（CS）を向上し、リピーターの確保を目指す。
- 環境に配慮するとともに、京都らしさを感じさせる外周及び園路整備を行う。
- 手すりやベンチに木材を用い、木のぬくもりが感じられる施設とする。
- 教育機関等の団体利用にともない、大型バス用の乗降場を整備する。

イ 施設整備計画

- 芝生広場の整備
- 中央売店の建替え
- 雨天休憩所の改修
- 大水禽舎の撤去
- フクロウ舎の撤去
- 正面エントランスの整備

- 東門エントランスの整備
- 中央休憩エリアの整備

ウ 主な施設

- 西エリア
 - ・入園・案内 エントランス , インフォメーション, 駐輪場, 大型バス用乗降場, タクシー降り場
 - ・飲食, 物販 レストラン, スーベニアショップ (土産店) (学習施設内)
 - ・休憩 トイレ, 授乳室, 救護室 (学習施設内), 休憩所, 芝生広場
 - ・管理施設 事務管理棟 (学習施設内), 汚水処理設備, 電気設備 他
- 中央エリア
 - ・案内 インフォメーション
 - ・飲食・物販 カフェテリア, スーベニアショップ (土産店)
 - ・休憩 休憩所, トイレ, 授乳室, 芝生広場
 - ・遊具 子ども広場, 遊園地
- 東エリア
 - ・案内 インフォメーション
 - ・飲食 レストラン
 - ・休憩 雨天休憩所, トイレ, 授乳室, 芝生広場

資料

※ 観覧車

高さ 12m, 直径 10mと小規模だが, 昭和 31 年に設置された現役最古参クラスの観覧車。平成 20 年 6 月には, 朝日新聞の「勝手に関西世界遺産」に登録され, 再評価される。

(9) バックヤード・研究施設整備事業 *ゾーン面積；約1750㎡

- ・ 工作所や資材置き場等の管理施設を整備し、園全体のバックヤードエリアとしての機能を持たせる
- ・ 飼育、研究施設として、人工授精、人工ふ化、人工ほ育及び一時収容を行うための施設を整備する

ア 計画概要

- 「安全で安心な動物園」とするために、十分な感染症対策が取れるよう観覧区域と隔離し、防疫体制を整える。
- 工作所や資材置き場等の管理施設を整備し、園全体のバックヤードとしての機能を集約する。

イ 施設整備計画

- ツシマヤマネコ繁殖棟の整備
- 予備舎の改修、整備
- クマ舎の撤去
- 走鳥類舎の撤去
- シマウマ舎の撤去
- 飼育研究棟、繁殖棟の整備
- 工作所の整備

ウ 主な施設

- 繁殖、防疫等のための飼育研究棟
- ツシマヤマネコ繁殖棟
- 予備舎
- 工作所（資材置場、堆肥場、ゴミ集積場等）

5 活性化に向けた取組

(1) 基本方針

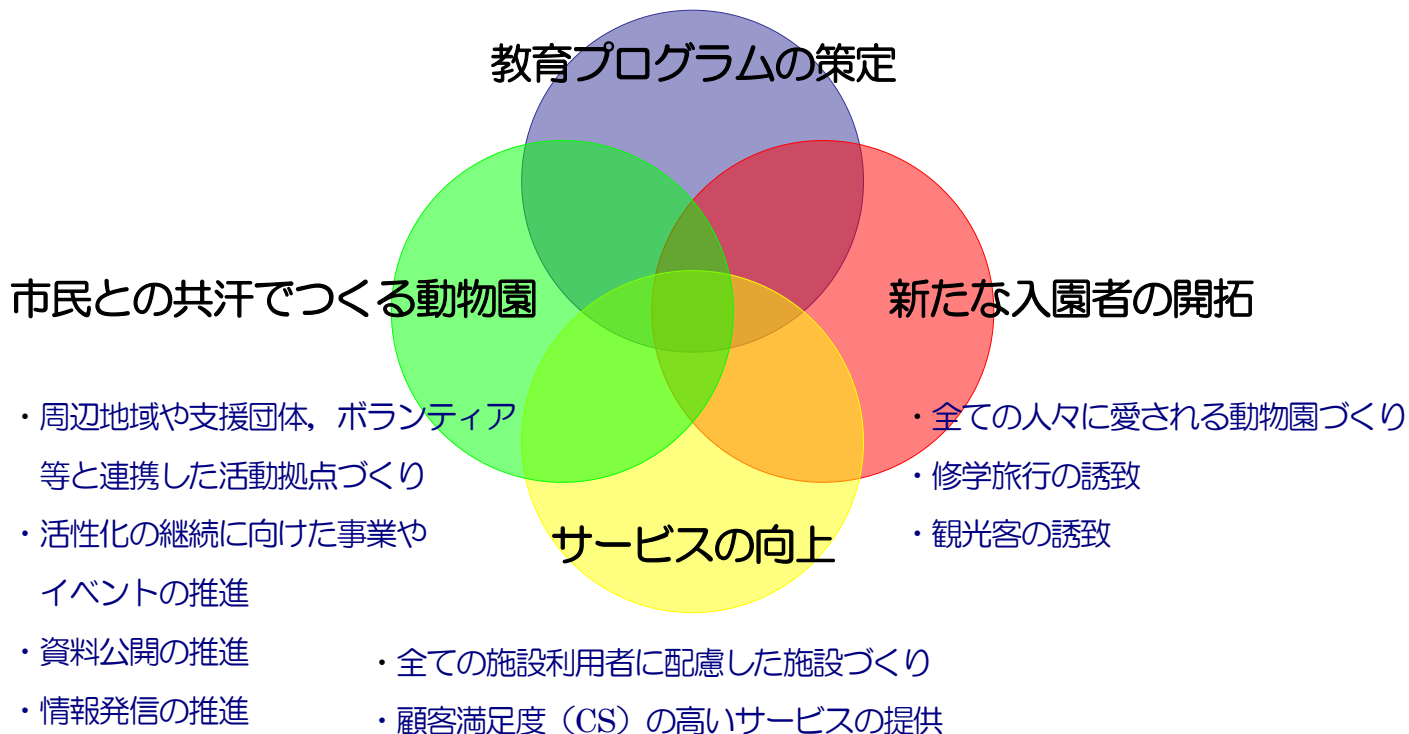
ア 教育プログラムの策定

イ 市民との共汗でつくる動物園

ウ サービスの向上

エ 新たな入園者の開拓

- ・これまでの取組の体系的見直し
- ・全ての世代の人々に、常に感動を与えるプログラムの策定



(2) 教育プログラムの策定

教育プログラム策定のコンセプト

- ・ これまで実施してきた様々な教育の取組を体系的に見直し、子ども達や高齢者をはじめ、全ての世代の人々に、常に新鮮な感動を与えることができるよう、他の動物園の後追いでない、環境教育や野生動物の保全に必要な「教育プログラム」を策定する。

具体的な取組

- 体験型の教育プログラムの開発と実施
 - ・ 動物園を環境教育の体験学習の場として位置付け、各年齢層に応じて、動物や自然との関わりを体験できる多様な教育プログラムを開発・実施する。
- 生と死が実感できる「いのちの教育」の実施
 - ・ 飼育展示している動物の生や死の告知の徹底や、野生鳥獣救護センターの救護活動の報告、講演等で、飼育員の動物飼育上の体験に基づいた、生と死について実感できる機会を提供する等「いのちの教育」を実施する。
- 野生動物の現状と保全の取組を伝える環境教育の開発と実施
 - ・ 京都大学野生動物研究センターとの連携により得られるアフリカやアジアでの野生の類人猿の研究成果情報や保全活動の状況、現地で保全活動を行っているNPO/NGOの協力を得て、絶滅のおそれのある野生動物の現地での状況と保全の取組を題材にしたタイムリーな環境教育を開発・実施する。
- IT（情報技術）を利用したプログラムの提供
 - ・ 園内ナビ「野生への窓」^{※1}を構築し、一般の入園者や学校団体など利用者の属性に合わせたコンテンツを公開する。
 - ・ 学校単位で動物園を訪れるグループに対して、事前および事後の授業を実践するためにITを利用した、動物園と教育現場を双方向で結ぶネット授業の実用化に向けた取組を進める。なお、プログラムの作成に当たっては、教育委員会と連携して学習指導要領に基づいた内容で、利用しやすいシステムとする。

- ・ 園内ナビ及び講演向け資料として、ライブ映像の配信システムや映像コンテンツの整備を進める。

□ 案内サインの充実

- ・ 掲示板の情報内容や表記などのガイドラインを作成する。
- ・ 足跡や手がたを利用した見学用通路を整備する。

□ 教育開発プロジェクトチームの立ち上げ

- ・ 教育関係者と協働で教育プログラムを策定するためにプロジェクトチームを設置し、検討・開発を行う。

資料

※1 園内ナビ「野生への窓」

携帯用コンピュータ端末機器を利用した園内ナビゲーションシステム。

IC タグや QR コード、GPS を活用して、動物の生態・行動・個体の特徴等や野生での現状に関する情報発信を行う。あわせて、周辺の動物情報などを提供する。

(3) 市民との共汗でつくる動物園

ア 活動の拠点づくりの推進

- ・ 周辺地域や支援団体、ボランティア等と連携した活動の拠点づくりを進める。

具体的な取組

□ 市民との共汗による動物園運営

- ・ ふれあい広場「おとぎの国」で活動する「京都市動物園ボランティアーズ」に加え、環境保全に取り組むNPOなどと協力して園庭整備を行う「環境ボランティア」や、動物舎の説明を行う「ガイドボランティア」等市民ボランティアの活動範囲を拡大し、多くの市民との共汗による動物園運営を進める。
- ・ 周辺の地域や学校に催しの案内や「動物園だより」の配布等、積極的に情報を発信するとともに、岡崎地域全体の「にぎわい」創出のために、すでに取り組んでいる桜のライトアップ、オータムフェスタ、スタンプラリーなど美術館、国際交流会館、みやこメッセ、地元商店街等と協力したイベント開催などの取組を推進する。

□ 「近くて楽しい動物園」の実現に向けた諸制度の整備

- ・ 動物園運営に参画いただくための個人等を対象にした、動物の飼育環境整備の支援を行う「動物サポーター」制度を導入する。
- ・ 動物舎の整備を企業、法人等の支援を得ながら行う「動物舎パビリオン」制度を創設する。
- ・ 入園者から広く寄付を募り、また、園内に設置されているジュース等自動販売機を、「寄附金付自動販売機」へ交換することを検討する。

□ 身近な支援拠点

- ・ WWF の募金箱（パンダ型）を設置し、寄付を行っている。
- ・ 日本動物園水族館協会の募金箱（ペンギン型）を設置し、集まった資金は野生動物に関する研究や調査費の助成に使用されている。

イ 活性化の継続に向けた事業やイベントの推進

- ・ 活性化の継続に向けた事業やイベントについて、企画を募集するなど顧客ニーズを的確に把握し、魅力ある動物園づくりを進める。

具体的な取組

□ 平日の取組

- ・ 週末に開催している人気イベント「ごはんですよ」の平日開催や雨の日イベントとして動物ビデオ上映などを検討する。また、飼育の日（4月19日）、オウムインコの日（6月15日）、バクの日（8月9日）などを実施する。

□ 「夜の動物園」の開催

- ・ 平成20（2008）年11月に実施した「秋の夜長の園内ツアー」では、応募30名に対し、応募者数は915名に達した。このように、普段では見られない動物園を見たいという御要望が多いことを受け、入園者の安全確保と動物福祉の観点から園路整備等を進め、「夜の動物園」開催を検討する。

□ 顧客満足度（CS）と顧客動向の把握

- ・ 各種事業やイベントの参加者を対象としたアンケート調査だけでなく、未就学児童を持つ保護者、小中学校の児童・生徒・先生など対象を限定したアンケート調査を実施する。
- ・ 広く顧客動向やニーズを把握するため、定期的に入園者アンケートを行い、更なるイベント等の充実を図る。

□ 京都らしさをPR

- ・ 券売改札やショップなどで和装を取り入れるなど京都らしさをアピールすることを検討する。

ウ 資料公開の推進

- ・ 各種の所蔵資料について研究や調査を進めるとともに、目録、解説書や案内書、データベースを作成し、資料の公開を推進する。
- ・ 野生鳥獣救護センターにおける保護状況（窓ガラスへの衝突、交通事故等）や地域環境についての情報を公開するとともに、保護個体の展示を含めて環境教育に役立つ資料公開を推進する。

エ 情報発信の推進

- ・ 常に新鮮な情報提供を行い、公共交通機関等との連携による広報・宣伝活動、情報発信の拠点づくりを進める。

具体的な取組

□ ウェブサイトのリニューアル

- ・ 動物情報やイベント情報等をタイムリーに発信するだけでなく、動物の動画や鳴き声、飼育日誌（ブログ）等の新しい情報を発信する。
- ・ 動物園の現状及び将来の動物園像を3Dで紹介するとともに、その整備過程についても情報発信をする「サイバー京都市動物園」を開園する。
- ・ 動物園利用のための各種申請書等のダウンロードや、市民や利用者の意見等書込みコーナーを設ける。
- ・ 携帯サイトを開設する。
- ・ 動物園運営に参画いただくための個人等を対象にした、動物の飼育環境整備の支援を行う「動物サポーター」専用サイトを開設し、メールマガジンを発行する。
- ・ 外国語の案内ページについても検討する。

□ 宣伝活動の推進

- ・ 岡崎地域の宿泊施設や飲食店はもとより、旅行代理店等への情報の提供、百貨店や大型スーパー、さらには近隣府県の教育委員会に情報提供と宣伝活動を進める。

□ 案内の充実

- ・ 公共交通機関の利用者などの来園者向けに、案内サインを歩道に設置する等充実を図る。
- ・ 三条神宮道、仁王門神宮道、南禅寺の交差点に案内板の設置を検討する。

(4) サービスの向上

ア 全ての施設利用者に配慮した施設づくり

- ・ 緑豊かで快適な休憩空間づくりを目指し、屋内外の休憩所、トイレ、授乳室等は、全ての施設利用者に配慮した施設づくりを進める。

具体的な取組

□ ユニバーサルデザイン化の推進

- ・ 現行の自然を活かした園路を基本的に保持しつつ、車椅子の方等にも配慮し、一部舗装を行うほか、ボランティアの活用などによる施設のユニバーサルデザイン化を推進する。

□ 清潔、快適な利便施設の再整備

- ・ 休憩所、トイレ、授乳室等は清潔で快適を目指して再整備を行う。

□ アクセスの改善整備

- ・ 岡崎地域にある動物園として他の観光施設との連絡や周遊性や、公共交通機関の利用促進の観点から、上下水道局「琵琶湖疏水記念館」に通じる東出入口を開設し、市営地下鉄「東山駅」に加え「蹴上駅」を最寄駅とします。



イ 顧客満足度（CS）の高いサービスの提供

- ・ 個性ある「レストラン」、「ショップ」で、入園者の思い出に残るような「食べる楽しみ」、「買う楽しみ」を大切にした、顧客満足度（CS）の高い施設づくりを進める。

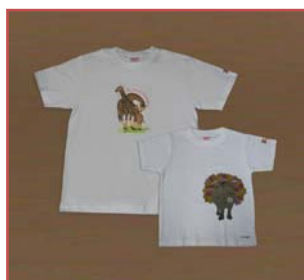
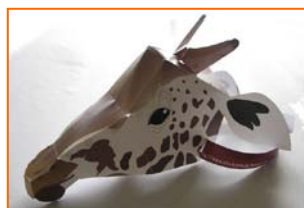
具体的な取組

□ オリジナルメニューの提供

- ・ 園内レストランでは、動物の餌を模したランチ等、動物園ならではのメニューや京風弁当等、地産地消を取り入れた京都ならではのメニューを提供する。

□ 「オフィシャルショップ」の開設

- ・ 企業等の協力で、オリジナルグッズを販売する「オフィシャルショップ」を設け、集客効果のある商品を販売する。売上げの一部は、施設整備等に充てる。



(5) 新たな入園者の開拓

ア 全ての人々に愛される動物園づくり

- ・ これまでは多くの「子ども」を対象に、飼育員や獣医、ボランティアなどが、動物園事業やイベント等に工夫を凝らし、入園者数増加に取り組んできたが、今後は新たな年代層の集客を目指す。

具体的な取組

- イベントの新たな展開
 - ・ 中高生やカップル層、シニア層等、ターゲットを絞ったイベント等を実施する。

イ 修学旅行の誘致

- ・ 中高生の修学旅行やグループ行動を積極的に誘致する。

具体的な取組

- 京都市観光協会「きょうと修学旅行ナビ」に参画
 - ・ 市バスや地下鉄利用の修学旅行生を誘致する。
- 学習施設としての動物園の情報を発信
- 思い出や印象に残るようなオリジナルグッズの開発、販売

ウ 観光客の誘致

- ・ 岡崎公園内にあることを生かし、積極的に各旅行会社や岡崎地域の宿泊施設飲食店等にもイベント情報の提供等を行い、観光客に対する情報発信やサービスの向上を図る。

具体的な取組

- 歴史的な史跡を PR
 - ・ 岡崎界隈の観光地の一つとして、動物園敷地が平安時代の建立された法勝寺南半分の遺構であり、八角九重塔の跡地があることも PR し、京都定期観光バスコースへの編入ができないか検討する。
- 「歩いて楽しいまちなか」戦略に参画
 - ・ 東側出入口を開設することで、南禅寺・琵琶湖疏水記念館から平安神宮への導線となり、観光客の利便性を兼ねるだけでなく、環境に配慮した「歩いて楽しいまちなか」戦略に積極的に参画する。

各種の動物園事業やイベント

1. 日曜祝日映画会 (春と秋の土日祝日 12日間)
2. 小学生サマースクール (年1回3日間)
3. 中学生動物園教室 (年1回実施)
4. 動物愛護週間事業 (年1回実施)
5. 飼育員の動物ガイド (毎月実施)
6. ごはんですよ～! (毎月2回実施)
7. 獣医が行く! (毎月1回実施)
8. 動物のお宅拝見! (毎月実施)
キリン舎, ソウ舎, カバ舎
9. ふれあい体験 (毎月実施)
キリン, ソウ, カバ, ヘビ, ペンギン, シマウマ, ブラジルバク
10. 一日動物園体験 (年2回実施)
11. 動物のごはん作りをお手伝い (年1回実施)
12. バックヤードツアー (年2回実施)
13. クイズラリー (年3回実施)
問題用紙を配布し、園内を回りながら動物クイズに答えてもらう。
14. クイズツアー (年3回実施)
園内を職員と一緒に回りながら動物を観察してその場でクイズに挑戦。
15. オリジナル紙芝居 (年3回実施)
16. 春の動物人気投票 (年1回実施)
17. ヒツジの毛がり (年1回実施)
18. セタスペシャル企画「あなたの願い叶えます」 (年1回実施)
普段経験できない動物園ならではの願いごとを叶える催し
19. 鳥の羽でストラップを作ろう (年1回実施)
20. 立体お面をつくろう (年1回実施)
21. 動物のお耳をつくってみよう (年1回実施)
22. 氷のプレゼント (年1回実施)
23. カバ, ソウ, キリンの体重測定 (各年1回実施)
24. サル温泉 (アカゲザル) (年2回実施)
25. ゴリラのお庭に木を植えよう (年1回実施)
26. オウム・インコの日 (年1回実施)
27. バクの日 (年1回実施)
28. 秋の夜長の園内ツアー (年1回実施)